

2020年度 第2回 阪大本番レベル模試 国語（人外法経）採点基準

1 文（文章）で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点（独立採点）すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容（語句）などがある場合は、その内容（語句）を減点要素として示されている場合もあります。
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「：とはどういうことか？」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 文脈のねじれがある、また主述の対応に問題があると判断される場合は、要素ごとに加点了上で、全体から2点減点する。
- ③ 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

□ (50点)

問一 (1)

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点10点

■模範解答例

任意加入の民間市場の年金や医療保険では、^A収益を追求する保険会社と、^B保険金で得をし
た^C。いと考える加入者の^D思惑が食違い、^E保険料が高騰して加入者が減少してしまうから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のもは全体不可 (0点)

■要素A「任意加入の民間市場の年金や医療保険では」2点…

・「任意加入」を欠いている場合は1点。

・「年金」または「保険」という具体的な内容がなく、単に「社会保障は」などとしたものは×。

■要素B 「収益を追求する保険会社」…2点

■要素C 「保険金で得をしたいと考える加入者」…2点

■要素D 「思惑が食違い」…2点

・保険会社と加入者との間に「食違い・齟齬・対立など」があるということが説明されていればよい。

■要素E 「保険料が高騰して加入者が減少してしまう」…2点

・「保険料の高騰」と「加入者の減少」のいずれか一方だけが示されている場合は1点とする。

■要素F 文末が「くから・ので・という理由による」など、答案が理由説明の形式になっていると判断できればよい。そうならないなら1点減点。

問一 (2)

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点10点

■模範解答例

A
B
C
D
自分の健康リスクに目を向けず 現在の快楽を優先したり、老後に必要な貯蓄額を正しく計算する能力が欠けたりする可能性が、健康リスクの高い人ほど大きいと考えられるから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「自分の健康リスクに目を向けず」…3点

・「健康リスクに対する(考え方に)バイアスがある」という本文の記述そのままの場合は2点。

■要素B「現在の快楽を優先したり」…2点

・「自分の健康状態について楽天的」もしくは「(行動そのものに対して)自制力のない」といった方向性の説明も可。

■要素C「老後に必要な貯蓄額を正しく計算する能力が欠けたりする可能性」…3点

・「可能性」は「傾向」などでも可。

■要素D「健康リスクの高い人ほど大きいと考えられる」…2点

・「健康リスクの高い人ほど」任意保険に加入しない傾向があるということが、答案のどこから読み取ればよい。

■要素E 文末が「くから・ので」という理由による」など、答案が理由説明の形式になっていると判断できればよい。そうならないなら1点減点。

問二

- ・文末表現は要素C参照

基準 配点6点

■模範解答例

A

B

消費者の意思力や計算能力の弱さという、人間の持つ能力の限界を容認して提示される論理的説明であるから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…五十字以内 二十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「消費者の意思力や計算能力の弱さという」…3点

- ・「消費者の」はなくてもよい。
- ・「意思力」、「計算能力」それぞれに対応する表現がなければ各1点減点とする。
- ・「能力」という語だけで、その中身の説明がなければ2点とする。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素B 「人間の持つ能力の限界を容認して提示される論理的説明である」…3点

- ・人間の能力には限界があることに言及できていれば良い。

■要素C 文末が「くから・ので・という理由による」など、答案が理由説明の形式になっていると判断できればよい。そうならないなら1点減点。

問三 b・d (順不同) 各4点

問四 (1)

・文末表現・答案形式は要素D参照
基準 配点8点

■模範解答例

A

B

利得も損失ももたらす個々の政策を、単独にではなく複数をパッケージにして法案化する
こ

C

とにより、損失を見えにくくして賛成者を増やすというやり方。

■採点方法・各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「利得も損失ももたらす個々の政策を」…3点

・利得と損失双方への言及がなければ×。

■要素B「単独にではなく複数をパッケージにして法案化する」…3点

・「単独にではなく」はなくても可。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。

■要素C「損失を見えにくくして賛成者を増やす」…2点

・「損失を見えにくくする」と「賛成者を増やす」のどちらか一方だけが示されている場合は1点。

■要素D 答案全体が「法案の提案の仕方」を説明する形式になっていると判断できればよい。そうならない場合は1点減点。

問四 (2)

・文末表現・答案形式は要素D参照

基準 配点8点

■ 模範解答例

A

有権者の利得を目立たせる法案の提出の仕方により、

B

損失が見えにくくなっているに過ぎず、

C

現実には損失それ自体は少しも減少していないという問題点。

■ 採点方法・各要素単独採点

■ 字数・七十字以内 三十四字以下のものは全体不可 (0点)

■ 要素A 「有権者の利得を目立たせる法案の提出の仕方」…3点

・「有権者の」と読み取れない場合は要素Aを1点とする。

■ 要素B 「損失が見えにくくなっているに過ぎず」…2点

■ 要素C 「現実には損失それ自体は少しも減少していない」…3点

* 要素A・B・C全てについて、説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■ 要素D 答案全体が「問題点」を説明する形式になっていると判断できればよい。そう
なっていないなら1点減点

☐ (50点)

問一 各2点 解答通り

(a) ふっしょく(ふっしぎ)

(b) げた

(c) らんよう

(d) にせがね

問二

■ 形式上の不備

・文末表現・答案形式はD要素参照

基準 配点12点

■ 模範解答例

D①

A

D②

ニュートン以前は、万人が常に同じ原理で行えることが科学とされたのに対し、ニュートン以後は、

B①

B②

C

これ以上分割できない物質とニュートン力学の基本方程式に従う運動に還元して現象を説明することが科学研究となった。

■ 採点方法…各要素単独採点

■ 字数…百字以内 四十九字以下のものは全体不可(0点)

■ 要素A「万人が常に同じ原理で行えることが科学とされた」…3点

- ・ 本文には「誰しも同じ原理で行える」という意味で、あきらかに科学」とある。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素B① 「これ以上分割できない物質」…3点

・「物質」は「粒子・原子・要素・もの」でも可。

■要素B② 「ニュートン力学の基本方程式に従う運動」…3点

・「…の基本方程式に従う」がない場合は2点とする。

* B①②はほぼ本文中の説明そのままである。両方揃っておれば、Bとして6点与えればよい。本文には「究極的には物質と運動に還元できる」という記述もある。これをほぼそのまま使っている場合は、Bとして4点与える。①・②それぞれについて、説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素C 「還元して現象を説明することが科学研究となった」…3点

・近代科学の方法が要素還元主義であるという点に言及できていれば、広く許容して3点与えてよい。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素D 答案全体が、ニュートン以前とニュートン以後の「科学」概念の対比を説明する形になっていると判断できればよい。対比構造が読み取れなければ2点減点。模範解答例のD①②が典型的な形式だが、もちろんこの形式でなければいけないわけではない。

問三

■ 形式上の不備

・ 文末表現は要素F参照

基準 配点10点

■ 模範解答例

A

B

C

占星術は、オカルトのように 人間が永遠に到達できない 未知の空間を知ろうとするものではなく、

D

E

現在は未知でも やがて必ず訪れる未知の未来を知ろうとするものだということ。

■ 採点方法…各要素単独採点

■ 字数…八十字以内 三十九字以下のものは全体不可(0点)

■ 要素A 「占星術は、オカルトのように」…2点

■ 要素B 「人間が永遠に到達できない」…1点

■ 要素C 「未知の空間を知ろうとする」…3点

■ 要素D 「現在は未知でも」…1点

■ 要素E 「やがて必ず訪れる未知の未来を知ろうとする」…3点

* C・Eに関しては、説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■ 要素F 「…ということ」という文末表現が原則。「…から…ので」など明らかにズレている場合は1点 減点。

問四

■形式上の不備

- ・文末表現・答案形式は要素H参照

基準 配点20点

■模範解答例

A

B

一切の目的から解放され現象の客観的認識に専念した 近代自然科学からすれば、占星術は擬科学かもしれないが、

C

D

E

客観的認識を超えて将来を洞察しようとする占星術は、自由意志を持つ人間のはてしない夢をかけた大事業であり、

F

G

そこで見出される予測と現実のギャップにより、人生というゲームに充実を与えるものだと考えている。

■採点方法・各要素単独採点

■字数：百五十字以内 七十四字以下のものは全体不可（0点）

■要素A 「一切の目的から解放され現象の客観的認識に専念した」…5点

- ・「(一切の) 目的から解放され」に2点、「現象の客観的認識」に3点が目安。
- ・「客観的認識」の「客観的」を欠く場合は2点とする。

■要素B 「近代自然科学からすれば、占星術は擬科学かもしれない」…3点

■要素C 「客観的認識を超えて将来を洞察しようとする占星術」…2点

- ・占星術は、将来（未来・先のこと・これから起こること、など）を知ろうとするものだという説明が1点。占星術は客観的認識などしないということが1点。

■要素D 「自由意志を持つ人間」…3点

- ・「人間の自由意志」という語句が、答案の中に正しく示されていれば可。同義の表現も認めるが、「自由」と「意志」の双方のニュアンスが読み取れなければ×。

■要素E 「はてしない夢をかけた大事業であり」…2点

・「(人間の) はてしない夢をかけた」という表現があれば3点。「大事業」の有無は問わない。

■要素F 「そこで見出される予測と現実のギャップにより」…2点

・「予測(予想・占い)と現実とのギャップ」という表現が、答案の中に正しく示されていれば可。

■要素G 「人生というゲームに充実感を与える」…3点

・「人生というゲーム(ゲームとしての人生)」という語句が、答案の中に正しく示されていればまず2点与える。「ゲーム」という語だけなら不可。

・前項にプラスして「人生を充実させる(豊かにする・意味づける、など)」といった説明があれば、さらに1点与える。

■要素H 占星術に対する筆者の考えをまとめた答案になっていると判断できれば可。

2020年度 阪大（人外法経）本番レベル模試 第2回

三 (古文『今鏡』) 採点基準

※ 50点満点

問一

(a) 傍線部について、文脈に沿うように、適宜言葉を補って現代語訳しなさい。【3点】

〔該当傍線部〕 (A1) B1あまりこちたくC1贈り物などして具しければ、

〔模範解答〕

A1僧がB1あまりにも大袈裟にC1贈り物などを用意して持たせたので

〔ポイント〕

A【1点】(補い) ↓僧が

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

B【1点】あまりこちたく ↓あまりにも大袈裟に

※「大袈裟に」は、「仰々しく・たいそうに」、または「たくさん・多く」、または「豪華に」等でもよい。

C【1点】贈り物などして具しければ、 ↓贈り物などを用意して持たせたので

※「贈り物を持たせたので」の意があればよい。

問一

(b) 傍線部について、文脈に沿うように、適宜言葉を補って現代語訳しなさい。【3点】

〔該当傍線部〕 (A1) B1心にC1や (B) かなひ (C) けむ

〔模範解答〕 A1娘の助言がB1僧の心にしっくりきC1たのだろうか

〔ポイント〕

A【1点】(補い) ↓娘の助言が

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「娘の助言」は「娘の言葉・娘の言ったこと」等でもよい。「助言が」の「が」は、意味が通れば「に・を」等でもよい。

B【1点】心にくかなひ ↓僧の心にしっくりき

※「僧の」の有無は不問。

※「心にしっくりくる」は、「心(胸)に響く・心(胸)を打つ・身(胸・心)にしみる・身(胸)に応える」等、または、「心・胸」等がない「響く・打つ・しみる・感じ入る・感動する」等、または「思ったとおりだった」等でもよい。「思ったとおりになった」は×。

C【1点】やくけむ、↓たのだろうか

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※過去推量(〜ただろう・〜たのだろう)と、疑問(〜か)の両方があつて【1点】。

問一

(c) 傍線部について、文脈に沿うように、適宜言葉を補って現代語訳しなさい。【3点】

〔該当傍線部〕 A1それはB2えなむ侍るまじき

〔模範解答〕 A1五節の童女になることはB2できそうにもございませぬ

〔ポイント〕

A【1点】それは ↓ 五節の童女になることは

※Bへつながれば「五節の童女には」でもよい。

※「五節の童女」が「童女」になっている場合は×。

B【2点】えなむ侍るまじき ↓ できそうにもございませぬ

※不可能（～できない・～なれない）の意があれば【1点】。この意がない場合は×。

※右の意がある上で、丁寧（～です・～ます・～ございます）の意もあれば【2点】。

※推量（～しそうだ・～だろう）の意の有無は不問。

問二(1) 和歌(X)について、「・・・」を、掛詞を踏まえて現代語訳しなさい。【4点】

〔該当部〕 A1行く方も知らぬB2うき木の身C1なれども

〔模範解答〕 A1行き先もわからないB2浮き木のようなつらい身の上C1ではあるけれども

〔ポイント〕

A【1点】行く方も知らぬ ↓ 行き先もわからない

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「行く先」は「行方・将来」でもよしとする。「行く方」のままは×。

※「わからない」は「知らない」等でもよい。

B【2点】うき木の身なれども ↓ 浮き木のようなつらい身の上

※「浮き木のような」ができていたら【1点】。

※「つらい身の上」ができていたら【1点】。「つらい」は「心憂い・物憂い・悲しい・寂しい」等でもよい。

※右の二つが両方できていたら【2点】。

※「身の上」は「身」でもよい。「自分・私」、または「おまえ」でもよしとする。

C【1点】なれども ↓ ではあるけれども

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「であるけれども・だけれども」でもよい。

※「けれども」は、逆接であれば「が・ものの」等でもよい。

問二(2) 和歌(X)について、この歌に込められたよみ手の心情を説明しなさい。【8点】

〔該当和歌〕 行く方も知らぬうき木の身なれども世にし巡らば流れ逢へ亀

〔模範解答〕 A1都に帰されることになり、B1僧との仲もこれで終わりかと思うと、C1身を寄せる場所もなくD2心細く、E1再会は難しいと思うものの、F2いつかまた僧に逢いたいと願う心情。

〔ポイント〕

A【1点】都に帰されることになり、

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※Dの心情が生まれる事情として、「都に帰される・都に帰る」の意があればよい。

B【1点】僧との仲もこれで終わりかと思うと、

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※Dの心情が生まれる事情として、「僧と別れる・僧との仲が断たれる」の意があればよい。別れる対象が「僧」であることが明らかになっていない場合は×。

C【1点】身を寄せる場所もなく

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※Dの心情が生まれる事情として、「身を寄せる場所がない・行き場がない」の意があればよい。

D【2点】心細く、

※「悲しい・寂しい・つらい」等、または「別れを惜しむ」の意があればよい。

E【1点】再会は難しいと思うものの、

※「僧と再会することは難しいと思っている」の意があればよい。

再会の対象が「僧」であることは、解答全体から読み取ればよい。対象が「僧」であることが明らかになっていない場合は×。

F【2点】いつかまた僧に逢いたいという心情。

※「僧と再会したいと思っている」の意があればよい。

再会の対象が「僧」であることは、解答全体から読み取ればよい。対象が「僧」であることが明らかになっていない場合は【1点】。

問三 傍線部(ア)はどのようなことを述べているのか、わかりやすく説明しなさい。【8点】

「該当和歌」 A2 返しは世の常のことなり。 B6 迎へ給へらんこそ、歌の本意も待らぬ
「模範解答」 A2 和歌に対して返歌をするのはありきたりのことであり、B6 小大進を呼び戻してこそ、「再び逢いたい」という小大進が歌に込めた気持ちにかなった対応となるということ。

「ポイント」

A 【2点】 和歌に対して返歌をするのはありきたりのことであり、

※「返歌をするのは普通(ありきたり・あたりまえ・当然)のことだ」の意があればよい。

※「返歌」は「返事・手紙の返事」でもよしとする。

※ここである「返歌」は「僧が小大進に」するものであるが、「和歌を送ると、相手から返事が来るといふのはふつうのことである」「歌を返すというのは 男女の仲では当然のことである」のように一般的なこととして書かれていてもよい。

B 【6点】 小大進を呼び戻してこそ、「再び逢いたい」という小大進が歌に込めた気持ちにかなった対応となるということ。

※「小大進を呼び戻すのがよい・小大進を呼び戻すべきだ」の意が読み取れれば【2点】。
「呼び戻す」は「迎え入れる」等でもよい。

「会うのがよい・会うべきだ」等は【1点】。

※「再会」の意がなく「小大進を呼び戻すのが、小大進の歌の意味にかなっている」の意が読み取れる場合は【4点】。

ただし、「小大進を呼び戻さないと、×再会したいという歌の本心が伝わらない」のように、歌を僧の歌として説明している場合は、【4点】にはならない。その場合、「小大進を呼び戻すのがよい・小大進を呼び戻すべきだ」の意が読み取れば、その分の【2点】は得点できる。

※「歌」の意がなく「小大進を呼び戻すのが、再会を望む小大進の気持ちにかなっている」の意が読み取れる場合は【4点】。

※「小大進を呼び戻すのが、再会を望む小大進の歌の意味にかなっている」の意が読み取れれば【6点】。

問四 傍線部(イ)「・・・」を、「こればかりなる」の具体的な内容を補って現代語訳しなさい。 【8点】

〔該当傍線部〕 A 2 童女に出だすべき女、B 3 ほかのかたがた見給ひけれど、C 3 こればかりなる見えざりければ

〔模範解答〕 A 2 五節の童女として差し出すのにふさわしい女については、B 3 ほかの女性の方々も御覧になったけれど、C 3 小大進ほどふさわしい女は見当らなかったので

〔ポイント〕

A【2点】童女に出だすべき女、↓五節の童女として差し出すのにふさわしい女については、

※「五節の童女に出すべき女は」の意があれば【2点】。

※「五節の童女」が「童女」になっている場合は【マイナス 1点】。

※「に差し出す」は「に出す・に出仕させる・にする」等でもよい。これに相当する訳がない場合は【マイナス 1点】。

※「べき」の訳は「出すのにふさわしい・出すのに適当な・出すのによい・出すべき・出そうとする・出すことができる」でもよい。

これに相当する訳がない場合は【マイナス 1点】。

※「については」は「は」等でもよい。

B【3点】ほかのかたがた見給ひけれど、 ↓ほかの女性の方々も御覧になったけれど、

※「女性の方々」は「女性たち・女たち・人々」等でもよい。「女性・女・人」等、単数になっている場合は【マイナス 1点】。

※「見たけれど」のように尊敬の意がない場合は【マイナス 1点】。

C【3点】こればかりなる見えざりければ↓小大進ほどふさわしい女は見当らなかったの

※「小大進ほどふさわしい女」は、「ふさわしい」がない「小大進ほどの女」でもよい。

また、「小大進ほどすばらしい女・小大進に匹敵する女」等でもよい。

※「見当らなかった」は、「見られなかった・見つからなかった・いなかった」等でもよい。

※「見当らなかった」に相当する意がない「小大進が1番だった・小大進がふさわしかった・小大進が適任だった」等は【1点】。

※「ので」は「ため・から」でもよい。これに相当する訳がない場合は【マイナス 1点】。

問五(1) 傍線部(ウ)「・・・」について、どのようなことを述べているのか。わかりやすく説明しなさい。【8点】

〔該当傍線部〕 A4あなたがちに思ふ事にてあるに、B4かまへて聞きたらば、いかなる大事をもかなへむ

〔模範解答〕 A4どうしても五節の童女になることを小大進に了承してほしいので、

B4承知してくれたら、そのほうびとして、どんなに大きな願いでもかなえてやるつもりだ、ということ。

〔ポイント〕

A【4点】どうしても五節の童女になることを小大進に了承してほしいので、

※「小大進に五節の童女になることを了承してほしい(五節の童女になってほしい)」の意があれば【3点】。「五節の童女」でなく「童女」としたものは1点減点。

※右の意がある上で、「どうしても・ぜひ・何が何でも」等の意があれば【4点】。

B【4点】承知してくれたら、そのほうびとして、どんなに大きな願いでもかなえてやるつもりだ、ということ。

※「五節の童女になることを承知したら(受けたら)どんな願いもかなえてやる」の意があればよい。

問五(2) 傍線部(ウ)「・・・」について、小大進にとって「大事」とは何であったのか、説明しなさい。【5点】

「該当傍線部」 あながちに思ふ事にてあるに、かまへて聞きたらば、いかなる大事をもかなへむ

「模範解答」 A1熊野神社に参詣してB1母親の帰京を祈願し、C1母を迎えに筑紫へ下ってD2連れ帰り、都に住まわせること。

「ポイント」

A【1点】熊野神社に参詣して

※「熊野神社に参詣する」の意が読み取れれば【1点】。単に神社としたものは×。

B【1点】母親の帰京を祈願し

※「母親の帰京を祈願する」の意が読み取れれば【1点】。

C【1点】母を迎えに筑紫へ下って

※「母親を迎えに行く・連れ帰るために母に会う」の意が読み取れれば【1点】。「筑紫へ」の有無は不問。

D【2点】連れ帰り、都に住まわせること。

※「母親を都に住まわせる」の意が読み取れれば【2点】。